基本構想

第１章　大月町の将来像

１　将来像

将来像は、本町が目指す町の姿を示すものであり、今後のまちづくりを推進する際の象徴として位置付けられるものです。

人口減少や少子高齢化等、厳しい社会環境が続く中、時代の潮流やまちづくりの主要な課題を踏まえ、住民との協働のもと、魅力と活力にあふれ、住み心地のよいまちを目指し、本計画の将来像を次のとおり定めます。

住みたい　住める　住んでよかった
未来へ繋ぐまちづくり

２　推進テーマ

本計画で定めた将来像の実現に向けては、移住・定住対策が必要不可欠であることから、本計画の推進テーマを次のとおり定めます。

人づくり、地域づくり

本町の掲げる将来像の実現に向け、その基盤となる「人づくり」、「地域づくり」を推進し、中でも、１次産業を担う人材及び団体をはじめ、福祉・介護サービスに携わる人材及び地域組織、観光産業にかかわる事業者及び団体における後継者や新たな就業者等の掘り起こしや育成に取り組んでいきます。

第２章　人口の見通し

１　将来人口の考え方

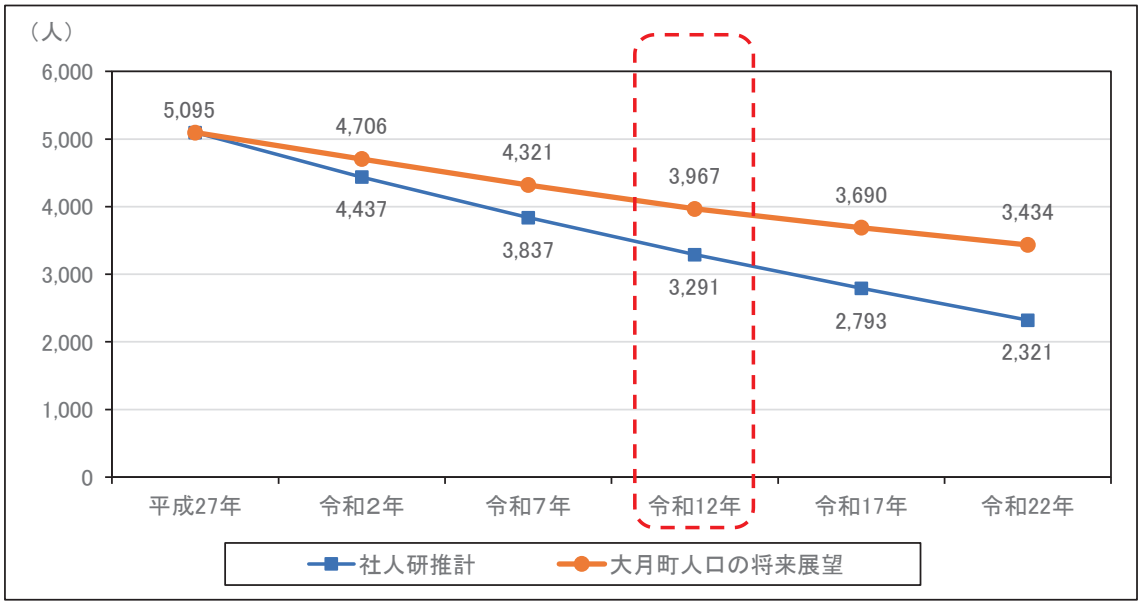
本町の総人口は、令和２年４月時点で 4,875 人（住民基本台帳）であり、将来に向かって人口減少の傾向が続くことが予想されています。人口の減少は、労働力の低下、消費需要の縮小など住民生活への影響をもたらすことが懸念されます。

本計画の指標とする将来人口は、時代背景や「大月町人口ビジョン」（平成 28 年２月策定）、「第２期大月町まち・ひと・しごと創生総合戦略」（令和２年３月策定）との整合を図って設定します。

２　指標とする将来人口

本町の人口は、減少局面を迎えており、平成 27 年の国勢調査結果によると 5,095 人となっています。また、国立社会保障・人口問題研究所（社人研）が発表した推計では、本町の令和 12 年の人口は 3,291 人になることが予測されています。

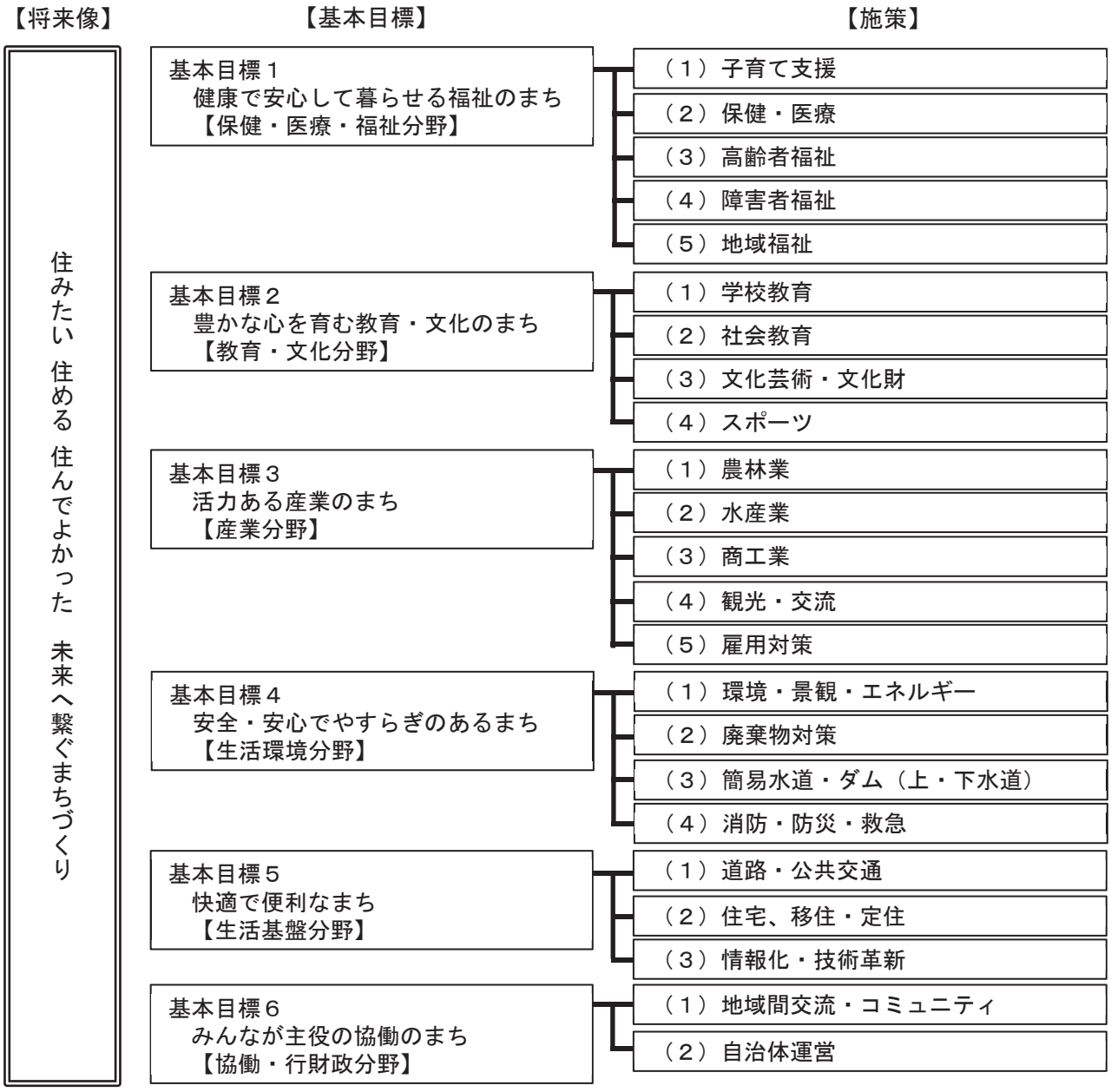
本計画では、まちづくりに関する施策を総合的に展開することにより、自然動態・社会動態の改善に努め、目標年度となる令和 12 年における将来人口を約 4,000 人と推計します。



注：平成 27 年の値は、国勢調査による実績値。「社人研推計」の令和２年から令和 22 年までの値は、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成 30（2018）年推計）」による推計値。

第３章　基本目標

将来像「住みたい 住める 住んでよかった　未来へ繋ぐまちづくり」の実現に向けて、新たなまちづくりの基本目標を次のとおり設定します。



基本目標 1　健康で安心して暮らせる福祉のまち

少子化の急速な進行に対応した子育て支援の充実、住民一人ひとりの健康の保持・増進に向けた健康づくり・地域医療体制の充実に努めます。

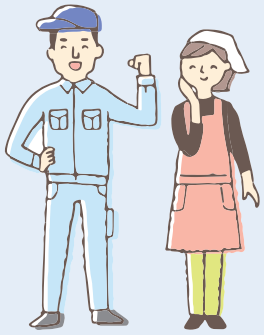
また、高齢者や障害者がいきいきと暮らせる福祉・介護環境の充実、支え合いの精神に基づく地域福祉体制づくり、さらには、医療保険・年金等の充実に努め、健康で安心して暮らせる福祉のまちづくりを進めます。

基本目標 2　豊かな心を育む教育・文化のまち

生きる力の育成を重視した幼児期・学校教育の充実、生涯にわたって学び続け、自己を高めていくことができる生涯学習体制の充実に努めます。

また、住民主体の芸術文化活動の促進やスポーツ活動の支援に努め、豊かな心を育む教育・文化のまちづくりを進めます。

基本目標 3　活力ある産業のまち



地域産業の活性化や担い手の育成をはじめとする多様な振興施策を一体的に推進し、本町の基幹である1次産業の一層の振興に努めます。

また、商工会との連携による地域に密着した魅力ある商業活動の促進、既存企業への支援や企業誘致等による工業の振興、地域資源等を活かした観光・交流機能の拡充に努め、活力ある産業のまちづくりを進めます。

基本目標 4　安全・安心でやすらぎのあるまち

環境負荷の少ない持続可能なまちづくりに向けた環境保全活動を推進するとともに、循環型社会の形成に向けたごみ・し尿等廃棄物処理対策の充実に努めます。

また、健康で快適な暮らしに欠かせない上水道・下水道の整備に努めるとともに、消防・防災・救急体制や防犯体制・交通安全の一層の充実を図り、安全・安心でやすらぎのあるまちづくりを進めます。

基本目標 5　快適で便利なまち

計画的な土地利用の推進や道路・交通網の整備、移住・定住につながる住宅・市街地の整備を進めるとともに、住民生活の質的向上に向けた情報化・技術革新の推進を図り、快適で便利なまちづくりを進めます。

基本目標 6　みんなが主役の協働のまち

新しい時代の住民と行政との協働のまちづくり、地域主導のまちづくりに向け、住民参加のまちづくりの推進やコミュニティ活動の充実を図ります。

また、人権尊重社会・男女共同参画の形成に向けた取り組み、地方創生の時代にふさわしい自立した自治体経営を推進し、みんなが主役の協働のまちづくりを進めます。